



今わたしは、ある幹線用水路の測量をしています。

そこで今回は、**田んぼと水**について考えてみたいと思います。

**田んぼ**には、5月の代掻き時期から8月の登熟期までの**約4か月間水が必要**です。

一般的に1株で20kgの水を吸収するそうです。10aに必要な水の量を、県内で作られているつや姫で考えてみると、

1坪に70株、10aは約300坪、とすると

$$20\text{kg} \times 70\text{株} \times 300\text{坪} = 420,000\text{kg} = 420\text{t}$$

420tはあくまで稲が吸い上げる水で、実際には何度も田んぼの水を入れ換えたり、蒸発したりするのでこの数倍の水が必要になります。仮の3.5倍とすると、**10a当たり約1,500t**も必要となるのです。幹線の用水路となると、1本で100haから数100haの田んぼを潤す訳ですから、とてつもない量の水を流しているのです。ですから、**用水路は貴重**なものです。

大切にしよう。

今度は逆に考えてみましょう。

10aに必要な水は1,500t、10aは約300坪、1坪に70株、1株に約20穂(莖)、

1穂に約70粒、このうち実際米になるのが約85%、とすると、

$$1,500\text{t} = 1,500,000\text{l}$$

$$1,500,000\text{l} \div 300\text{坪} \div 70\text{株} \div 20\text{穂} \div (70\text{粒} \times 0.85) = 0.06\text{l}$$

つまり、1粒の米を作るのに0.06lかかるのです。

牛乳ビン(200ml)1本で約3粒しか作れないのです。茶碗1杯の米の量は約3,200粒なので、 $0.06\text{l} \times 3,200\text{粒} = 192\text{l}$

茶碗1杯のかげには、ドラム缶1本の水があるのです。

**水は大切に使いましょう。**

※ 考え方はいろいろ有るでしょうが、その内の一つです。

